



職場見学で知る、 僕らと検査センターとの関係

広島県立広島国泰寺高等学校 1 年生 8 人

去る 10 月 5 日、「総合的な学習の時間」の一環として、広島県立広島国泰寺高等学校 1 年生男子生徒 8 人が、当検査センターを職場訪問してくれました。彼らは、医療分野に興味を持ち、また、“働く”とはどういうことなのか理解を深めるため、今回当検査センターを選んでくれました。彼らは弱冠高校 1 年生でありながら、今回の学びを卒業までの高校生活に役立てようとしています。

当検査センターでは、3 年連続で国泰寺高校からの職場見学を受け入れています。この機会を通じ、我々医療に携わる者も再び初心に戻ることができます。

「誰の何のために臨床検査をしているのか。」

「同じ道を歩もうとしている若者に対して、何ができるのだろうか…。」

■命(いのち)の大切さと尊さについて 濱川以行(学術データインフォメーション課課長)



当検査センターでは、広島県内全域の新生児に対して、生後直後に行われる先天性代謝異常検査を実施しています。当日は、先天性代謝異常症について説明しました。彼らには少々難しい内容だったようですが、今こうして生きていられることへの感謝の気持ちが芽生えることを期待して、最初の時間にお話しました。さらに、彼らに“命(いのち)の大切さと尊さ”を十分理解してもらいたい、という思いもありました。

【生徒の感想】

- ・自分が赤ちゃんのとき、血をとられて検査されたことは覚えてないけど、検査してもらったおかげで、今こうやって元気に暮らせているから、とてもありがたいことだと思った。(T.K)
- ・最初に見た映像の中で、生まれてすぐの女の子が、病気の影響で陰核が変わっていたのが、とても印象に残りました。生まれたての赤ちゃんにも色々な病気があり、それがもたらす影響を学べてとても良かったです。(N.K)
- ・最初のスライドで見させてもらった赤ちゃんを見て、こんな病気があるのか…



と感じ、そのような病気を早期発見するというのは絶対必要な仕事なので、この仕事に感謝している人がたくさんいるだろうと思いました。(U.F)

- ・ここで生まれたての赤ちゃんの生死も決まってしまうので、大変な事だと思った。(R.F)



■検査室見学 各検査科(一科、二科、三科)

見学コース

生化学検査 ■ 先天性代謝異常検査 ■ 細菌検査 ■ 血清検査 ■ 尿一般検査 ■ 血液一般検査 ■ 病理検査 ■ 細胞診検査

各検査部門の担当者が臨床検査について説明しました。生徒たちには検査用語が理解しづかったようですが、実際に検体を目で見てもらうことで興味を持たれたのではないのでしょうか。

【生徒の感想】

- ・1つのミスも許されない中で仕事をしている人たちは、ほんとうに真剣だったので、すごいと思った。こういう場所でいち早く病気を見つけてくれる人がいるから、自分たちは健康でいられるのだと思いました。(J.T)
- ・怠けると、すぐに人の死に直結するような緊張感が常にあることに驚きました。このような所はミスが許されないの、直接患者さんに触れるのと同じだと思いました。(S.S)
- ・今日の体験で一番感じたことといえば、人間の細胞、また、つくりなどを見て、こんな風になっているんだ、ということです。
働かされていた人数は少なかったですが、みなさんとても集中して、黙々と仕事をされていました。広島市の生命をあずかっている重圧がとても伝わってきました。(T.T)
- ・がんなどの検査もすごい地道な作業をしていて本当に患者にとってはありがたい仕事だと思いました。検査がなくては治療できないと思うので、とても大切で役立つ仕事で、少し興味を持ちました。(Y.S)
- ・人の生死に関わる場所で、働くのは大変なんじゃないかなと思ったけど、話を聞いて、関わることによって生きがいを感じている人もいるんだなと思った。この見学で、今まで知らなかったことをたくさん知ることができてとてもよかった。(T.K)
- ・今日、この臨床検査センターにこさせいただき、最初に驚いたことは、この臨床検査センターに自分達は何も関わりのないものだと思っていたら、



それは間違っていて、生まれてすぐこの臨床検査センターに関わっていたので驚きました。(N.K)

・たくさんの機械があつてビックリしました。1 日中立ってやる作業もあったようなので大変だなと思ったけど、つかれた顔も見せずに黙々と作業しているのはすごいと思いました。私は親が医療関係の仕事をしているので、医療に通じる仕事全てに興味があります。今日見学させてもらったことを忘れずに、真剣に進路を考えてみようと思いました。(U.F)

・話がとても難しかったけど、大変な仕事だと感じとれました。やはり医療関係の仕事なので、人の生死にも関わるので、責任もある仕事だと思いました。細かい作業だったので、なおさら大変に感じられました。手を洗う回数も多くて、衛生管理もとても厳重だと思いました。工場みたいで、意外に人が少ない場所もあるんだと感じられました。機械なので、ほぼ安全になっているのだと思いました。(R.F)



■先輩からのメッセージ 張本和江(精密健診科主任/昭和55年広島国泰寺高校卒)



後輩たちに伝えたかったこと

今年も社会見学として私の卒業した広島国泰寺高校の生徒さんたちが当検査センターを訪ねてきてくれました。社会に興味を持ち、真面目に取り組む彼らに、先輩として本当に嬉しく思いました。

私どもの検査センターで何を学んで、何を吸収してもらおうかと考え、社会人の何たるか云々というよりも、長年携わっている超音波検査を通しての私の経験をお話することにしました。

生体検査では、直接患者さんと接するためコミュニケーション能力も非常に重要ですが、それに伴い専門的な知識や技術が求められます。そして、小さなキッカケ(=検査結果)から大きな病変を見つけることもあります。そんな経験談などを話しました。

医療分野では、いかなる立場においても、少なからず患者さんの生死に関わっているのだという事を、彼らに学んでもらいたかったのです。



数多くある医療機関の中から広島市医師会臨床検査センターを選んでいただけたことをとても誇りに思います。今回の職場見学が生徒さんの将来目標を見出す経験の一助になれば、我々も大変嬉しく思います。

近い将来、どこかの医療機関で職場見学してくださった生徒さんが働いている姿を見かけることができるかもしれません。彼らのなお一層のご活躍を期待しております。